

かみあぐ

上安久Ⅰ号墳

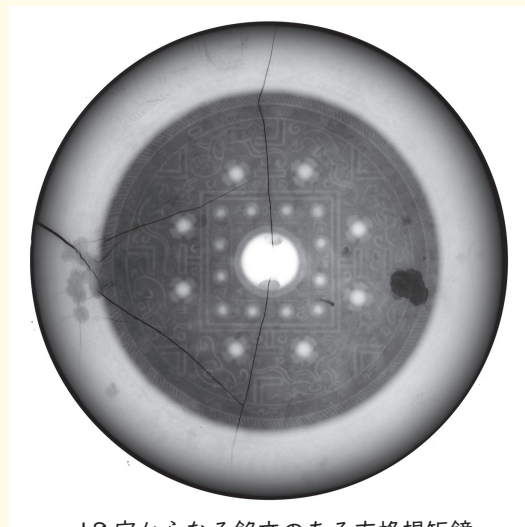
上安久Ⅰ号墳は、西舞鶴の伊佐津川右岸河口の標高約 50m の尾根上に立地する直径 27m ほどの円墳です。現在は、眼下に西舞鶴の市街地が広がっていますが、当時は近くまで海が入り込んでいたと考えられます。

墳頂部では長辺 4.6m、短辺 2.3m の墓墳が見つかり、内部に長さ約 2.2m の礫床を中心に 3 つに区画した組み合わせ式木棺が納められていました。礫床のある真ん中の空間に東枕で装身具を身につけた人物が埋葬されていたようで、頭の東側から銅鏡と豎櫛が、両脇と左足の横から刀剣が出土しました。頭側の区画からは馬具、足元側の区画からは鉄鍬や鉄鎌、玉類や豎櫛が出土しました。墳丘盛土上からは初期須恵器が小破片で出土しており、5 世紀前半に営まれた古墳と考えられます。

最も注目されるのは、国内でも珍しい銅鏡です。直径 18.8 cm と大きく、X 線写真から前漢末頃に製作された方格規矩鏡であることがわかっています。古墳の築かれる 400 年以上前に中国で製作された鏡で、副葬されるまでどのような経過で舞鶴にもたらされたか興味が尽きません。



東上空から古墳を望む。正面は建部山



18 字からなる銘文のある方格規矩鏡

遺物が語る京都の歴史

どうたく

銅鐸形土製品（長岡京市砦遺跡）

弥生時代中期から後期にかけて、近畿地方を中心に中部地方から中国地方までの広い範囲で、青銅でできた銅鐸がまつの道具として使われます。京都府内からは、山林開発や宅地造成に伴い 7 か所から 11 点の銅鐸が発見されています。これらの銅鐸を真似て手のひらサイズで作られたのが銅鐸形土製品です。

府内からは、7 遺跡 11 点が出土しています。砦遺跡の銅鐸形土製品は、中期中葉の土坑から出土しました。舌が中に入った状態で、実際に音を鳴らしたものと考えられます。銅鐸のように大きく響くことはなく、どのような場面で使用されたのかかわからない不思議な遺物です。



発掘調査

よもやまばなし

排水は調査のかなめ！

降雨後の排水は、調査を進めるうえで非常に大切な作業です。調査区の壁際に排水溝を巡らせ、集水用の穴からポンプで排水します。正確に土層観察や遺構検出ができるように水との格闘は続きます。



【発行日】令和 8 年 2 月

【編集・発行】公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617 - 0002 京都府向日市寺戸町南垣内 40 番の 3



HP



X



facebook



instagram



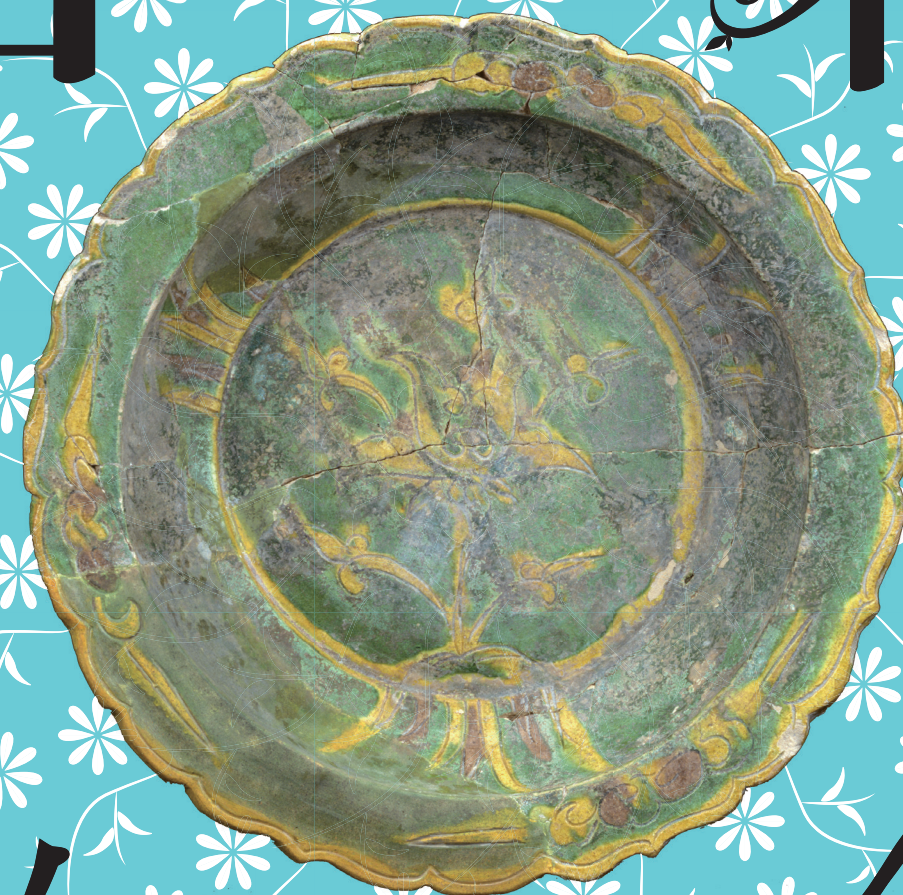
2025



もっと知りたい

京都の遺跡 第17号

百



華南三彩盤 / 平安京出土

中国からの舶来品。内面には謎の花が描かれている。

線

いつの時代も、花は美しい。

古来より、植物は文学や絵画などの作品の題材として多くの人々に愛されてきました。また、日用品や嗜好品、さらには家紋やお寺の瓦にまで植物のデザインが取り入れられ、身分の貴賤を問わず生活に色どりをもたらしてきました。

美しく咲き誇る花々に人々はどんな思いを寄せていたのでしょうか。京都府内から出土した遺物に描かれた花模様から、それを紐解いてみましょう。

生活と花

桜



水滴 / 平安京左京一条三坊三町出土（京都市）

平安時代には、桜を鑑賞して愛でるようになり、江戸時代には、桜を題材にした歌舞伎や文学作品が生まれます。

江戸時代の硯に水を注ぐ水滴にも桜をモチーフにしているものがみられます。

梅



散蓮華 / 平安京左京一条三坊三町出土（京都市）

春先に小さな花を咲かせる梅は、縁起の良い花として多くの文化人に愛されてきました。唐の文化にあこがれた奈良時代は、花見といえは桜よりも梅が主流でした。

本作は江戸時代後期の散蓮華。春の兆しを感じられる「氷割れ梅花」の文様があります。

牡丹



色絵鉢 / 寺町旧域出土（京都市）

古くから中国で薬用として栽培されていた牡丹は、その美しさや華やかな姿から多くの文化人に愛されました。

この江戸時代の色絵鉢には、赤い牡丹が中にも外にも描かれています。「柿右衛門」様式を彷彿とさせる黒い線の輪郭、多めの余白が牡丹を引き立てています。

山吹



山吹双鳥文鏡 / 女布遺跡出土（舞鶴市）

平安時代から色や文様が好まれた山吹は、華やかさの象徴として『源氏物語』などの多くの文学作品に登場します。

この平安時代後期の鏡の鏡背には二羽の鳥と山吹の花がデザインされています。姿見の鏡ですが、2つの穴が開けられており、壁にかけて信仰の対象としていたようです。

武士と花

菊



鉤形台 / 三ノ宮東城跡出土（京丹波町）

平安時代に大陸から伝来した菊は、高貴な植物として貴族や武士に愛されてきました。

この戦国時代の兜の鉤形台には菊の文様があしらわれています。兜の荘厳さをより一層引き立たせていたのでしょう。

仏教と花

蓮華



蓮華文軒丸瓦 / 井手寺跡（栢ノ木遺跡）出土（井手町）

蓮華は仏教やお釈迦様をあらわす花で、古代の寺院では軒丸瓦のデザインに用いられました。時代や地域によって蓮華のデザインが大きく変わっています。

宝相華文

宝相華文垂木先瓦 / 井手寺跡出土

唐から伝わった伝統的な装飾文様のひとつで、蓮華や牡丹などを組合わせた空想上の花「宝相華」をモチーフにしています。

橘氏の氏寺「井手寺」の金堂や塔の屋根を支えた垂木先には、宝相華文の描かれた奈良三彩で彩られた瓦が貼り付けられていました。



金箔瓦 / 聚楽第跡出土（京都市）

桐紋は豊臣家を象徴する家紋のひとつです。五三桐は信長から、五七桐は後陽成天皇から下賜されました（写真は五三桐）。

本作は聚楽第跡で出土した金箔瓦です。安土桃山時代、数々の大名が屋敷の屋根に金箔瓦を用いて権力を誇示するようになりました。

近代	
近世	江戸時代
	安土桃山時代
	戦国時代
中世	室町時代
	南北朝時代
	鎌倉時代
古代	平安時代
	奈良時代
	飛鳥時代
古墳時代	後期
	中期
	前期
弥生時代	後期
	中期
	前期
縄文時代	晩期
	後期
	中期
	前期
	早期
旧石器時代	